

## シンポジウム【一酸化炭素中毒】

### 一酸化炭素中毒の多種要因および診断の落とし穴

#### —他の中毒も含めて

土居 浩 内田萌々 荒井孝志 朝本俊司  
荒井好範

牧田総合病院脳神経外科

#### 【はじめに】

一酸化炭素中毒の原因は火災、練炭自殺が最も多いが、排気ガス自殺、木炭の消し忘れ、キャンピングカー内で七輪を焚いたまま寝込む例、冬に火鉢、七輪を付けたまま寝込む例、ビニールハウス内での木炭使用例、プロパンガス関連、クレーザーでの事故、マンホール内の事故、茶室での事故などが知られているが最近ではシーシャの事件など多種に及んできている。そこで多種要因を提示する。

#### 【診断の落とし穴】

急性期には教科書的に淡蒼球の病変が強調されるために、診断が異なり治療の遅れが生じる症例が多いことを強調する。特に練炭関連や七輪などCO中毒がすぐに想像される症例は問題ないが、例えばビニールハウスで倒れていた症例などは当初、核酸強調画像の高信号で脳梗塞発症と診断されたり、遅発性脳症で初めて受診した症例の場合、当初神経内科的な白質脳症などで、高気圧酸素治療の遅れを生じた症例が2例認められた。昨年の総会で発表した症例のクレーザーの事故では、当初発症した症例で薬物中毒による白質脳症の診断で精神科救急に乗り、高気圧酸素治療も行われず、植物状態に至った。このときも淡蒼球には病変が認められなかった。クレーザーに同乗し東京に帰京後発症した症例の方は通常の治療が行われ、社会復帰するまで回復を得た。したがってMRI診断が重要で、一酸化炭素中毒には多種要因があり、十分な病歴聴取が重要と思われた。

#### 【他のガス中毒に関して】

ガスによる中毒の治療に関してもCO中毒以外にも硫化水素中毒やヘリウムガス中毒があり、そちらに対する高気圧酸素治療の応用も知られてきた。どちらも

致死率が高いため、HBO装置を有する救急施設にたどり着くことは少ないが、当院でのヘリウムガスによる自殺例で救命し、社会復帰はできなかったが、独歩退院した症例を経験できた。硫化水素中毒も1例加療を加えたが意識回復はかなわなかったが、救命できた症例を経験した。

#### 【考案】

何より重要な点は初期の段階で現病歴の詳細な解析が重要で、それがHBOの効果にも影響することがあると思われた。今後も各種ガス中毒に関してもHBO装置を有する救急病院は対処できるように準備が必要と考えられた。